
アンパンマン伝説

ぽぽすみす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アンパンマン伝説

【Zコード】

Z5214A

【作者名】 ぱほすみす

【あらすじ】

あなたは某アニメ「アンパンマン」を知っているだろうか。まわりの大人们は子供たちと楽しそうに見ているが、心では「こんなことあるわけないじゃない」と厳しいことを思つてはるはずだ。しかし、実のところ本当にあつた話を「アンパンマン」の原作者が子供向けに内容を改めたものなのである。この話を信じるも信じないもあなたの自由。だけど、この世界には人類を超えた究極の存在があるということ、そのスケールの大きさとこつもの記憶の片隅にでも残しておいて欲しいと思う。

あなたは某アニメ「アンパンマン」を知っているだろうか。

そう、あの幼児のための典型的なくそアニメである。

まわりの大人们は子供たちと楽しそうに見ているが、心では「こんなことあるわけないじやない」と厳しいことを思っているはずだ。

しかし、実のところ本当にあつた話を「アンパンマン」の原作者が子供向けに内容を改めたものなのである。

俺はこの事実をできるだけ多くの人に知つてもらいたい。そこで、俺の知つているすべての情報をここに記すことにした。

この話を信じるも信じないもあなたの自由。

だけど、この世界には人類を超越した究極の存在があるということ、そのスケールの大きさというものを記憶の片隅にでも残しておいて欲しいと思う。

でははじめよう、この話の舞台は現在のガラパゴス諸島。

えつ？

テレビで見るともつと植物もたくさん生えてるし、広大な大陸のような気がするつて？

そう、そのとおりだ。

これは後に記すが「バイキンマンとアンパンマンの最終戦争」に使われたその当時の最新兵器、neutron bomb発射型バイキンレールガンの発射により大陸は消滅し、からうじて今のガラパゴス諸島の部分のみがほとんど被害を受けずにすみ、今に至るわけである。

そもそもアンパンマンとバイキンマンがなぜ現れたのか、それが最初の疑問である。

すぐにもそれを説明したいのだが、その前に知つておかなくてはならないことがある。

そう邪夢おじさんのことである。

アニメ版ではジャムおじさんなんてかわいらしい名前で親しまれているが、実際は両親にこんな子供はいらないと虐待を受け、名前などつけられていなかつた。

しかし、ある朝両親が朝食を食べていると、パンに塗つてこるジャムを見てこういった。

そうだー。こいつの名前を邪夢にしよう。

そう言い放ち腹を抱えて笑つていると、邪夢はその場から逃げ出し、森を越えた先にある空き地を目指した。

当然両親は心配などせず、かえつて邪魔が消えてよろこんでいた。

その先何が起こるかも知らずに。

そしてそれから数年間、森で出会ったマーマレードおじさんと科学の知識を詰め込まれ、邪夢の右に出るものがないほど優秀な科学者になった。

そして最初の長期実験により誕生した生命体、パンマン〇一を操り両親への復讐を行つた。

両親はもぢりん惨殺され、パンマン〇一はその死肉を食らつた。

するとパンマン〇一の体に変化が起つた。

邪夢は徐々に危険を感じはじめ、急いでパンマン〇一を成長を阻害する謎の液体の充満したカプセルに閉じ込め、そして地下深くに厳重に保管した・・・・

これが邪夢の過去の記録である。

これで邪夢についての知識を得たと思つ。

それではアンパンマンとバイキンマンの誕生の秘密を明かそう。

話は戻り、地下に封印されたパンマン〇一は確かに成長を阻害する液体漬けになつてゐるはずだつた。

だが邪夢のミスにより研究中の新種の菌類を培養していた液体の中にヤツはいた。

まずい！

そう思つたときにまもつ手遅れだつた。

封印を軽々と破り、ヤツは地上に降り立つていた。

頭部には一本の触角が生え、体色は黒ずんでいる。

このままではまづいそう悟つた邪夢はすぐに近くにあつたHネルギーキヤノンを手に取り、迷わずに発射した。

しかし、試作段階だったため暴発し、その場で氣を失つた。

そのままにパンマンの頭脳は邪夢の数倍だったのだから不思議に研究施設を建造した。

そのときのパンマンの頭脳は邪夢の数倍だったのだから不思議ではない。

そして数日後、邪夢は田を覚ました。

そして鏡を見て絶叫した。

髪は熱によつまるでパークのよつになり、顔は腫れ上がつていた。

そして自然と言葉がでた。

バイキンマン・・・・やつそのとき邪夢によつて命名されたのだ。

「パンマンのマン + 菌の培養液からバイキン=バイキンマン」とね。

そのとあわざこじが起きていた。

パンマン〇一改めバイキンマンが自分の頭脳を完全に使っこなせる
よつになつたのだ。

何がまざいがだつて？

そりや邪夢の両親の脳みそ食つたんだから。

邪夢の両親はなんだかんだ言つても天才だつたんだからじょうがな
い。

邪夢＝両親のうち一人分の能力しか受け継いでいないのに、バイキ
ンマン＝二人分+ なんだから大変だ。

そして、そのことに気づいた邪夢は急いでヤツに対抗できる生物兵
器の研究に全精力を注いだ。

頭脳では勝ち目がない、ならば力で押し切る！

そう、それにはワイルドさが欠かせない。

科学者らしきもないと農作業セットを抱えてドアへと向
かつた。

はつ！ だめだ、こんなに普通にドアから出たらワイルドのワの字さ
えも語ることができない。

そりつぶやくと何やら走りだした。

はああああああーーー

バキバキッ！！

ぐわあああああーーー

自分の体の限界を知らなかつた邪夢は重症を負つた。

しかし、彼の求めていたワイルドでは確實に現れていた。

壁は粉みじんに吹き飛び、自分の通つた後にはクレーターができていた。

十分やつたよ。

そう誰もが励ましの言葉をかけてやりたくなるほどのがんばりだったが、彼はまだ満足していなかつた。

といふか材料収集が目的だつたので行くしかなかつた。

砕けた足を引きずり、近くの草原まで歩いて行くと、おもむろに近くの雑草を引きちぎり、手に下げたバケツにぶち込んだ。材料はこれだけ、なにしのワイルドさがモットーだからな。

そしてその帰り、邪夢はすばらしくワイルドなオーラを放つ物体を見つけた。

その名もコンペイトウ、しかし、そのコンペイトウはただのコンペイトウではなかつた。

とても不思議な、淡い光を放つていた。

その瞬間、邪夢はその場に崩れ、涙を流し合掌し、うつむいた。

「ここに・・・ここに見つけた・・・マーマレードおじさんが言っていたこと本当だつたんだ。

「3000年に一度だけこの世界に摩訶不思議な力を持つたコンペイトウが降臨する、そのものは何者も受け付けぬ力を持ち、それを食した者は永遠の命、そして究極の力を手に入れることができる。」

邪夢はそのものをやわらかく抱き、急いで研究所へ戻った。

まずは雑草についていた実をちぎり、すりつぶしコクをだすために水ではなくミルクを注ぎ入れた。

そしてこねる、これが一番大事だ。

(このときはこれがパンであることを知らない)

「ねればこねるほど口の強いワイルドなものになる。」

そしてコンペイトウを包み、暖炉にくべた。

(これがこずれオープンに変わつていく)

「オオオー!

「のすゞ」炎のなかでだんだんと完成に近づいていく。

そのときー窓の彼方より隕石が落ちてきた。

ちょうどそれは研究所の煙突の中に入り、爆音と閃光に部屋は包まれた。

邪夢は気を失っていたようだ。

いつの間にかあたりは暗くなっていた。

あつ！

おれの実験は！

すぐに暖炉に手をやると何者かが立っていた。

誰だ！

そう問い合わせると、いつ答えた。

a m p h e t a m i n e p l e a s e !

実際はアンフェタミン（覚せい剤）くれといっていたのだが邪夢はアンフェタミンをアンパンマンだと勘違いしてしまった。

そしてそれからアンパンマンとバイキンマンの長く辛い戦いが始まった。

(後書き)

この話が元となる続編もお読みください！！

http://nw.ume-labo.com/pc/main.
php?m=w1-4&ncode=N5707A&am.

p;

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5214a/>

アンパンマン伝説

2010年10月15日21時10分発行